

「しじみの森」における植樹



去る五月二十六日、市浦村相内山国有林内において、十三漁協主催による「しじみの森」づくりのための植樹祭が行われた。

当日は漁協組合員、市浦小緑の少年団員、県、村関係者など約二百人が参加し、しじみ貝の良品生産に願いを込めてブナやクリなどの苗木約二、八〇〇本を植樹した。

この取り組みは、昨年度行われた十三湖近くのセバト沼や明神沼岸への植樹の延長となる事業で、今年度は県や国の協力を得たことで規模が拡大され漁協主体の植樹としては大掛かりな活動となった。

「漁業者も環境保全に関心を持たなければいけない時代」とする工藤組合長は「今年度は木を植え、来年度以降は森を育てていきたい」と長期的な漁協事業として「しじみの森」づくりを計画している。



「しじみの森」入口



植樹作業